



建設 ICT 13年度は332件で活用

導入普及研究会
施工報告会

効果、課題など検証

中部地方整備局や民間企業などで構成する建設ICT導入普及研究会は27日、同局会議室で建設ICTを導入した工事などの施工報告会を開いた。写真。情報化施工の増加に伴いメリットやデ

メリットも明らかになってきたことから、課題解決に向け施工事例などを報告、情報を共有する。昨年に続き2回目の開催。冒頭、青木保孝技術普及ワーキンググループチームリーダーが「各社の取り組み状況、課題や解決策の方向などを報告してもらい、誰もが取り組める情報化施工を目指したい」とあいさつ。引き続き中部整備局の担当者が同局工事での取り組み状況を説明。13年度の活用件数は332件（前年度比14件増）で、新規工事は220件（22件増）

と増加。また、アンケート結果で情報化施工の導入目的は総合評価の加算、作業効率の向上、施工品質の向上などの回答が多かったことが紹介された。施工事例報告では、3DM Cブルドーザやトータルステーション（TS）出来形管理、トンネル工事

や橋梁設計でのCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）導入などについて、実施内容や効果、改善点などの報告が行われた。施工事例報告者、内容は次の通り。敬称略。

▽建設ICT技術へのゼロからの挑戦Ⅱ青山正尚（太啓建設）。工場用地造成工事などに3DM Cブルドーザ、TS出来形管理を実施
▽情報化施工による土工実施Ⅱ田中貢（山辰

組）。揖斐川呂久築堤護岸工事でTS出来形管理、バックホウ3DM Cを実
施
▽佐久間道路第1トンネル（浦川地区）CIM試行の実施状況と展望Ⅱ出口大輔（大林組）、杉浦伸哉（同）。法面補強のモデル化（坑口上部のアンカーとトンネル掘削のゆるみ影響範囲の干渉チェック）、トンネル統合モデル構築（地形・地質・トンネル情報を一つにまとめた管理）、トンネルモデルに施工記録を

付加、完成引き渡し前の壁面クラック情報など維持管理初期モデル構築、情報共有
▽橋梁予備設計でのCIMの試行Ⅱ石川智浩（セントラルコンサルタンツ）。475号東海環
状（北勢～大安）北勢北高架構造詳細設計業務で、支障物や地質を3次元で可視化することによる構造物計画の効率化、景観性の確認、関係機関等との事業説明資料としての活用。

【建設ICT】

- | | | | |
|----------|--------|--------|-------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 4. 日経 |
| 4. 読売 | 5. 朝日 | 6. 毎日 | 5. 日経 |
| 7. 産経 | 8. 朝日 | 9. 毎日 | 6. 日経 |
| 10. 中部経済 | 11. 建設 | 12. 日本 | 7. 日経 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃 | 15. 日本 | 8. 日経 |
| 16. 建設工業 | | | |

平成26年 8月29日（朝）・夕 P 10